

ク」でした。そこでだまされたつもりで行ってみることにした。ところがこのフォーゲルパークが実にすばらしかった。球根ベゴニアやフクシヤの花が咲き乱れ、鳥たちと直に接することのできる温室は、冷房が行き届いており快適の一言であった。美術館のほうは時間がなくなりまた行くことにした。

パソコンと対面していると時間を忘れてしまう。まさに「飽きがこない」のである。ホームページの閲覧・メール送受・アルバム整理・ゲーム等々いろんなことをしている。これもボケ防止の一つと考え毎日マウスと戯れている。近い将来「電子町内会」もはじまるといふ。通信回線を利用した情報のやり取りは、ますます欠かせないものになると思えます。そのためにもまだまだよちよち歩きではありますが、こうした流れに何とかついていけるよう頑張りたいと思っています。

パソコンでできること

(7組) 和気 佳美

パソコンは仕事で使うもので、普通の家庭では何のために必要なのか、また機械操作が難しいのではないかと、敬遠されている方もおられることでしょう。我が家の場合も同様でしたが、ウィンドウズ95というOSが紹介されて、扱いやすいという評判につられて、ついにパソコンを購入しました。初めのうちは必要性がなくゲームに明け暮れていましたが、プロバイダー契約をしてインターネットに接続してからは活用の範囲が大きく広がりました。

ネットにより世界どこでも通じているので、地球規模の出来事をすばやく知ることができるようになりました。この間のアフリカの皆既日食はライブ中継されていたので、まるでその場で見ているかのようでした。また、ヤフーなどの掲示板は新聞の投書欄のようなもので、各種テーマで意見が交換されていたり、わからないことを尋ねたりすると、たちまち多くの人々から返事をもらうことができ、まるで日々更新する百科事典そのものです。

買物もできます。こだわりの逸品や産地直送品など、普段身近では買えない物も簡単に手に入ります。午後3時までに注文すると、翌日の午前中にはもう手元に届いたりするので、その速さにびっくりしましたよ。他に、メール機能があります。これは国内だけでなく海外の人とも交信でき、メールを送信すると相手の都合のよい時に見てもらえるので、電話の場合のような相手の留守を気にする必要はありません。そして画像や音声を添付することもできます。

いかがですか。なかなか便利なものだと感じられませんか。今、御南地区と西大寺地区は岡山市から光ファイバーの実験地区に指定されています。他の回線とは比較にならないほど速く、動画や音楽配信を楽しんでいます。ちなみに、我が家の場合プロバイダー料金は月1,500円ほどで使い放題です。皆様もパソコンを身近なものとしてご活用下さいませ。

パソコンの効用と楽しみ

(2組) 上野山 信一

1) インターネットの効用

ある日のこと、モンゴルから私のパソコンに1通のメールが飛び込んできました。その主は岡大に研究員で来ていた女性からのものでした。早速、通信文を書きそれに日本の紅葉の風景写真を添えてメールしました。それからメールが続いていますが、つい先日郵便小包便で中国産のロイヤルゼリーが送られてきました。きっとこちらの健康を気遣ったのだと思います。国境を越えた交流に何かほのぼのとした気分が湧いた次第です。これもパソコンのおかげで、時間を気にすることなく通信できることが夢のようです。

今回我が家も岡山市の情報水道のモデルとして、光ファイバーを引いてくださることとなり、楽しみにしております。皆さんも是非これに参加してみませんか。

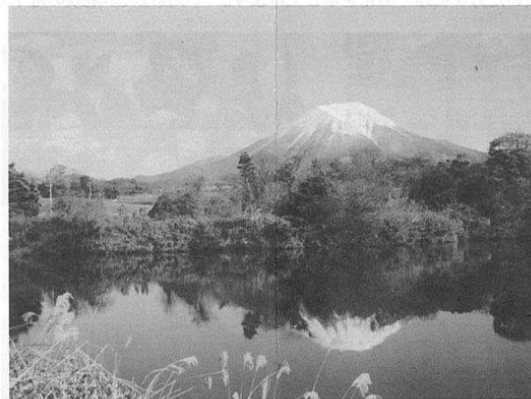
2) デジタルカメラの楽しさ

従来のカメラと違う点は

- ①フィルムが要らないので、当然現像料がかからない
- ②カメラ屋さんに行かなくて済む
- ③パソコンがあれば消耗品(用紙とインク)だけで自由に写真が作れる(写真参照)
- ④年賀状やポストカード等の自分流のものが作れて、時間の節約にもなる。

まだこれ以上いろいろな利点もありますが、とにかくやってみることで、根気とやる気があれば誰にもできます。これも若返りの一つの秘訣です。

(写真は初冬の大山 -H.13/12/12- デカで撮影、パソコンで取り込み)



白鬚宮の境内 (2)

(5組) 吉崎 昭

白鬚宮本殿(主祭神猿田彦命)の向かって左に天神さまを祀っているお社がある。全国各地で鎮守の神様として親しまれているが、その本源は京都北野の天満宮で祭神は菅原道真(845~903年)である。道真は右大臣から藤原時平の讒訴により大宰権師に落とされ2年ほどで亡くなった。その直後から京にひんびんと天変がおこり、雷が荒れ狂い、家々を焼いて人々を脅かし、そして道真を九州に追いやった者が次々と死に、首謀者の時平も39歳の若さで死んで人々はこれを道真の怨霊だと言いつつ合った。祟りを恐れこの怨霊を鎮めるために建てられたのが北野天満宮である。一条天皇の正暦4年(993年)に正一位左大臣、太政大臣を道真に贈り天満大自在天神の神名を奉って崇めた。大自在天とはヒンドゥー教の恐怖と恩恵の二面性をもつ巨大神シヴァ神の漢訳で同じように天神さまも牛に乗っている。以前から北野にあった天神、雷神信仰と道真が合体して祀られたと考えられている。

天神さまが受験、学問の神様になったのは、祭神の菅原道真は生前の業績が非凡で「類聚国史」「新選万葉集」などを著わし、また優れた書の人であったが、その学識や能書にあやかりたい願いと、怨霊となってまで復讐を遂げていった持続性や執念への願望であろう。

本殿の右にはお稲荷さまが祀られている。その本源は京都伏見の稲荷神社で和銅4年(711年)の2月初午の日(ご祭礼の日)に鎮座されたという。天長4年(827年)に従五位下に叙せられ天慶5年(942年)に正一位が上がった。稲荷神の主祭神は宇迦之御魂神(倉稲魂神とも書く稲の穀霊)であるが、早くから仏教の密教と結びつき茶枳尼天(人の死を予知する神通力を持つヒンドゥー教の狐に乗った女神で、供養すると凶事を知る予知能力を得るといふ)と習合し、ご神体も伏見系は稲束を担いだ老人、豊川稲荷のような仏教系は茶枳尼天像で現すものが多い。白狐は茶枳尼天の眷属で従者、使者(霊獣)であり、また油揚げは茶枳尼天の供物である。稲荷神は農耕神であるがさまざまな不安を解消する神として歴代天皇、幕府の大きな庇護を受け、江戸時代から商売繁盛、家内安全の守護神として爆発的に広く信仰され、全国には神社本庁に登録された神社が約8万あるがその内の3万が稲荷社であるといわれ、ビルの屋上にあるような屋敷神を入れると数えきれないほどである。

こうしてみると神様は仏様とお互いに尊重して習合し、共存融合、質的に変化して人々の多様な欲求の増大に応え、守り神としてそれぞれのもつ役割の領域を越えて祀られているのがわかる。

共有する価値が見えにくい時代となった最近では現世利益も利他的になり、信仰も空洞化の傾向にあるが、神仏にお参りし聖なる空間に身を置き、心をこめて祈った一瞬の清純な気持ちをご大切にしたい。